

河内長野市埋蔵文化財調査報告書IX

1993年3月

河内長野市教育委員会

序 文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

そして、大阪市内へ30分と言う通勤条件に恵まれ、この環境とともに人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。

この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大してきます。

地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握、保存に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長 中尾謙二

例　　言

1. 本書は平成3年度に河内長野市教育委員会が河内長野市遺跡調査会の協力のもとに実施した小塙遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査の費用は東急不動産株式会社が負担した。
3. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として、平成4年1月8日から着手し、平成4年2月15日をもって終了した。
4. 本書の執筆は尾谷雅彦がおこなった。
5. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。 (敬称略)
明地奈緒美・中野雅美・浦野巖・久保八重子・喜多順子・阿部園子・
中西和子
6. 航空測量については株式会社八州が実施した。

目 次

序文

例言

1. 位置と環境	3
2. 調査に至る経過	3
3. 調査の結果	3
小塩遺跡O S O91-2	
4.まとめ	8

挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図	1
第1図 調査地位置図(1/7500)	3
第2図 遺構配置図(1/500)	3
第3図 調査区土層断面図	4
第4図 P-1・P-2遺物実測図	4
第5図 包含層出土遺物実測図	5
第6図 包含層鉄器・石製品実測図	6
第7図 第2調査区包含層縄文土器実測図	7
第8図 第2調査区包含層石器実測図	8

表 目 次

第1表 河内長野市遺跡地名表	2
----------------------	---

図版目次

図版I 遺構 第1調査区全景(北東から)、(南西から)	
図版II 遺構 第2調査区全景(南から)、(北から)	
図版III 遺物 P-2(1)、P-1(3)、包含層(4~6・11・14・17・19)、 包含層縄文土器(29~35)	
図版IV 遺物 包含層(19~22・24・25・27・28・30・32)	
図版V 遺物 鉄器(22)、石製品(23)、石器(36)	



第1図 河内長野市遺跡分布図

第1表 <河内長野市遺跡地名表>

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	鳴尾遺跡	弥生時代・中世	47	尾崎北遺跡	古墳時代後期
2	塙谷遺跡	弥生時代～中世	48	尾崎遺跡	古墳時代～中世
3	小山田1号古墓	奈良時代	49	加賀田神社遺跡	中世
4	小山田2号古墓	奈良時代	50	ジワウノマエ遺跡	中世
5	菱子尻遺跡	縄文時代～中世	51	庚申堂	中世
6	千代田神社遺跡	中世	52	栗山遺跡	中世
7	市町東遺跡	弥生時代・中世	53	寺元遺跡	奈良時代～平安時代
8	寺ヶ池遺跡	旧石器時代～縄文時代	54	觀心寺	平安時代～
9	伴吉元宮遺跡	中世	55	延命寺	
10	西之山町遺跡	中世	56	川上神社遺跡	中世
11	野作遺跡	中世	57	金剛寺	平安時代～
12	西代神社遺跡	中世	58	日の谷城跡	中世
	本多番地裏跡	飛鳥・藤原時代・近世	59	沙の山城跡	中世
13	古野町遺跡	中世	60	峰山城跡	中世
14	膳所番地裏跡	近世	61	日野藏前寺遺跡	
15	向野遺跡	縄文時代～中世	62	竹王山城	中世
16	双子冢古墳伝承地	古墳時代	63	岩立城	中世
17	五の木古墳跡	古墳時代後期	64	タコラ城	中世
18	法師家古墳伝承地	古墳時代	65	国見城跡	中世
19	長野神社遺跡	中世	66	稻荷山城跡	中世
20	青ヶ原神社遺跡	中世	67	鐵藏城跡	中世
21	長池京路跡	平安時代～近世	68	大江城	中世
22	伝「仲哀廟」		69	石仏城跡	中世
23	上原近世瓦窯	江戸時代	70	左近城跡	中世
24	上原北城跡		71	清水遺跡	中世
25	上原中遺跡	古墳時代・中世	72	薬師寺	中世
26	塙六古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	73	千里口駅南遺跡	中世
27	大日寺遺跡	中世	74	地藏寺	近世
28	利合寺城跡	中世	75	廣毛城跡	近世
29	末広家跡	中世	76	葛城第18經塚	近世
30	河舟寺	近世～	77	天見駅北方遺跡	近世
31	福家寺	近世	78	葛城第17經塚	近世
32	鳥帽子形古墳	古墳時代後期	79	薬師堂跡	中世
	鳥帽子形城跡	中世～近世	80	飛谷八幡神社遺跡	中世
	鳥帽子形八幡宮	中世	81	小野塚	中世
33	喜多町遺跡	縄文時代～中世	82	蟹井潤北遺跡	中世
34	上田町遺跡	古墳時代	83	蟹井潤神社遺跡	中世
35	上田町聚跡	近世	84	蟹井潤南遺跡	中世
	大鏡山遺跡	弥生時代後期～	85	清水阿旁陀草跡	中世
	大鏡山古墳	古墳時代前期	86	稚呢城跡	中世
36	大鏡山南古墳	古墳時代後期	87	龍田御墓	中世
37	高向遺跡・高向南遺跡	縄文時代～中世	88	堂村地藏堂跡	中世
38	高向神社遺跡	中世	89	天神社遺跡	中世
39	慈持寺跡	中世	90	中村阿弥陀堂跡	中世
40	野間里遺跡	奈良時代～平安時代	91	西の村阿弥陀堂跡	中世
41	宮山遺跡	縄文時代～平安時代	92	東の村觀音堂跡	中世
42	宮山古墳	古墳時代後期	93	光庵寺	中世
43	高木遺跡	縄文時代	94	葛城第15經塚	中世
44	三日市遺跡	旧石器時代～近世	95	岩湧寺	中世～
45	小塙遺跡	縄文時代～奈良時代	96	鶴原遺跡	中世
46	加施遺跡	古墳時代後期	97	西前遺跡	古墳時代

1. 位置と環境

当該遺跡は、天見川の河岸段丘上標高約130mに位置する。

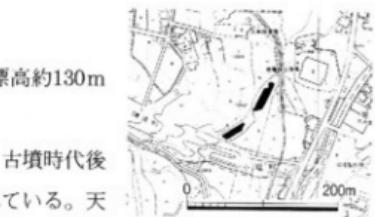
既往の調査結果を見ると縄文時代、古墳時代後期、奈良時代、中世の遺構が確認されている。天見川を挟んで旧石器から近世の複合遺跡である三日市遺跡が位置する。また、南側には古墳時代後期の集落跡である加塩遺跡が近接している。また、小谷を挟んで西浦遺跡が所在する。

今回の調査区は段丘斜面に位置する。

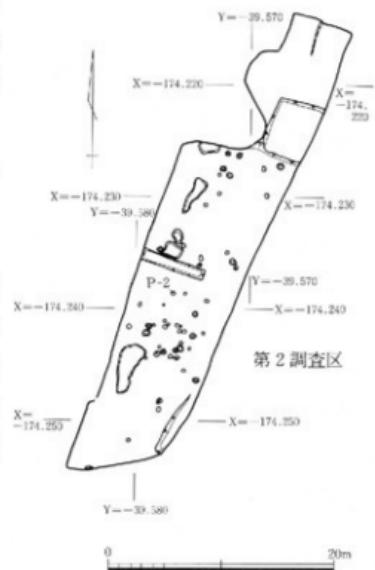
2. 調査に至る経過

当該地については平成元年度に共同住宅の建設に伴って調査を実施し、結果についてはすでに「河内長野市遺跡調査会報Ⅱ」で報告されている。今回の調査はこの住宅に伴う駐車場の建設に先立ち実施したものである。

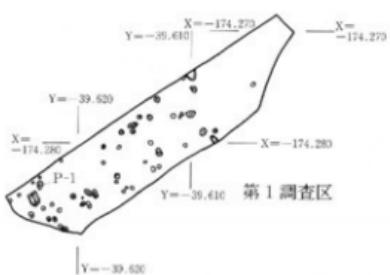
調査は平成4年1月8日から平成4



第2図 調査地位置図 (1/7500)



第2調査区

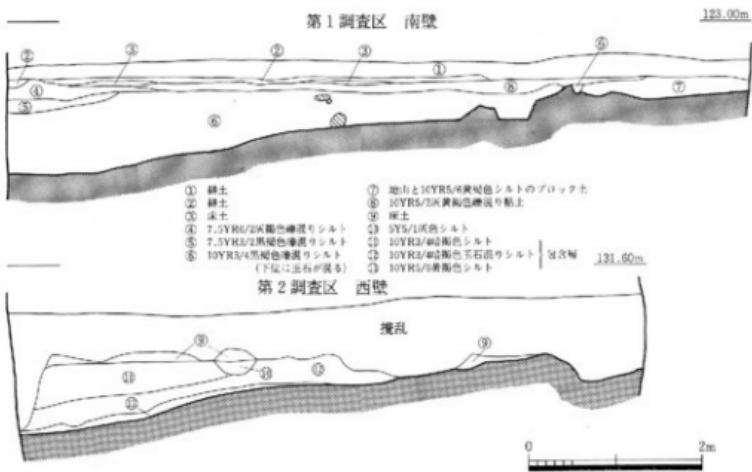


第3図 遺構配置図 (1/500)

年2月15日に実施した。

3. 調査の結果

調査は2箇所の調査区を設定して実施した。第1調査区は標高約123m、第2調査区は標高約131mで、第1調査区より若干標高が高い。



第4図 調査区土層断面図 (1/60)

A. 第1調査区

標高約123mを測り、遺構の検出された地山は南東に向かって下がる斜面となっている。

遺構

遺構は柱穴状のピットと土坑を検出している。柱穴状のピットは一列に並ぶものは存在するが、掘立柱建物には復元できるものはなかった。遺物はP-1から出土している。

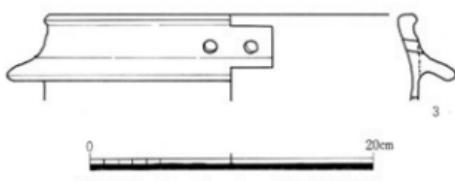
P-1は平面形が椭円形で長径0.7m、短径0.5m、深さ0.4mを測る。遺物は瓦器塊（2）、有孔の土師質羽釜（3）が出土している。



包含層

土器

土器では古墳時代後期の須恵器、土師器から中世瓦器塊まで出土



第5図 P-1、P-2 遺物実測図



第6図 包含層遺物実測図

している。

須恵器は底部が未調査の坏身（5）と甕（12）が陶邑編年II-6、坏蓋（6）はIV-4の段階である。

土師器は放射状の暗文を有する坏部だけの高坏（14）と脚部を有する高坏（15）、それに内面がヘラミガキの鉢（16）、外面ハケメの甕（17）である。

瓦器塊（21）は内面のヘラミガキが剝離しているが、尾上編年III-3期と考えられる。

石製品

土器以外に滑石製の子持勾玉（23）が出土している。勾玉は下1/3が欠損している。背側と側面にそれぞれ2個一対で小型の勾玉が付けられている。腹側には台形の突起が作られている。また、側面の小型の勾玉に接して径0.6cmの穴が穿たれている。残存長12.5cm、背面の小型の勾玉から腹側の突起まで幅6.5cm、厚さ1.2cmの大きさである。

B. 第2調査区

第2調査区は第1調査区の北側に設定し、標高は131mを測る。遺構のある面は東側に向かって傾斜する。

遺構

遺構は柱穴状のビットが検出されているが、ここでも掘立柱建物の復元まで至っていない。ただP-2から土師質小皿（1）が出土している。

第2調査区の遺構面となっている層が地山でなく段丘崖の崩落土の二次堆積土で、層中からは縄文土器が出土した。

包含層

土器

土器は縄文土器、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器塊が出土している。

須恵器は坏身（4）と短頸甕（10）、甕（11）はII-5、坏身（7）がIII-

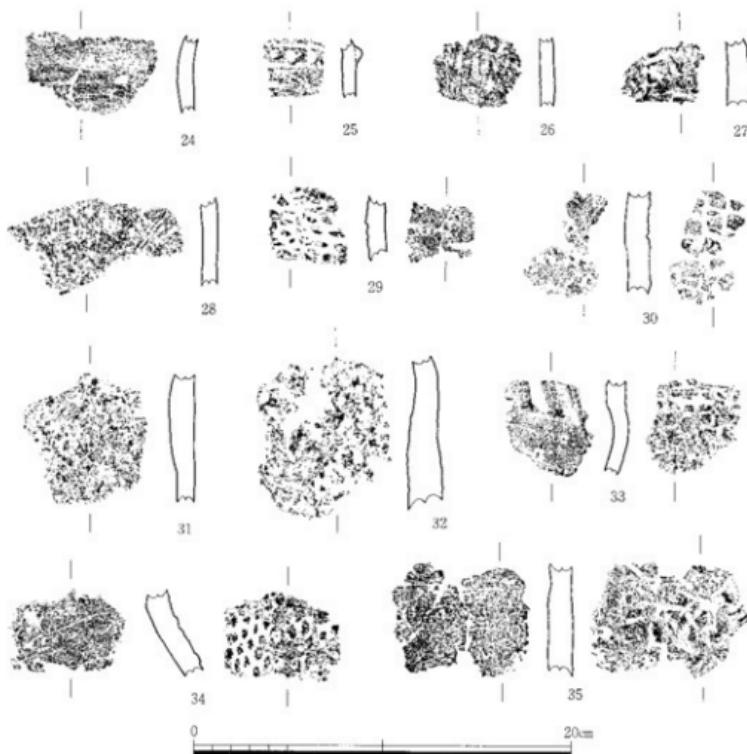


第7図 包含層鉄器・石製品実測図

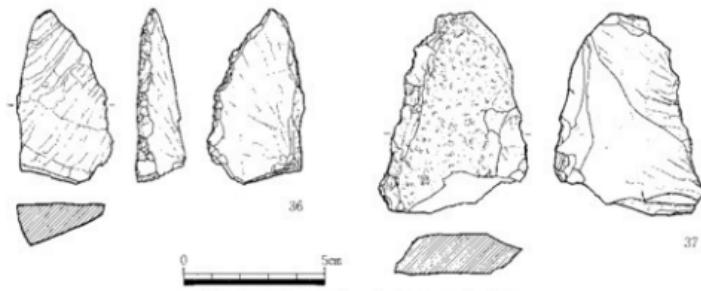
1、高台付の坏身（8・9）がIV-4の段階を示している。
 上部器では杯（13）、黑色土器（18）が出土している。
 瓦器塊は（19）が暗文がみられ内面底部は格子状である。（20）は内面の調整不明である。いずれも尾上編年III期の範疇に入るものである。
 縄文土器は包含層出土が（24～28・31・34）が出土している。このうち（24）と（25）は晩期と考えられる。また、（34）は凸部が粒状に残る押型文土器である。

石器

スクレイパーが2点（36・37）出土している。いずれもサイドスクレイパー



第8図 第2調査区包含層縄文土器実測図



第9図 第2調査区包含層石器実測図

で、(36)は刃部が鋸歯状に仕上げている。(37)は背面が自然面を残している。

鉄器

錆化が激しく、原形を復元することは困難であるが、袋状鉄斧(22)である。

二次堆積土

いずれも縄文土器(29・30・32・33・35)で他にも細片が出土している。

(29)は風化が激しく文様の判別は不明である。しかし、他は押型文土器である。(29)は粒状であるが(30・33)は大型の格子状である。(35)は文様は判別しがたいが、格子状の押型文の上をなでているようである。

4.まとめ

調査は以上の結果が得られた。今回の調査では明確な遺構は検出されなかつた。しかし、遺物では三日市遺跡に統いて早期の押型文が出土し、大阪府下でも遺跡数の少なく、まだ明確になっていないこの時代の様相を知る上で重要な発見である。

また、滑石製の子持勾玉も市内でははじめての出土である。

小塩遺跡は今回の縄文土器の発見により、縄文時代、古墳時代後期から平安時代、中世の複合遺跡であることがより明確になった。

図 版



第1調査区全景（北東から）



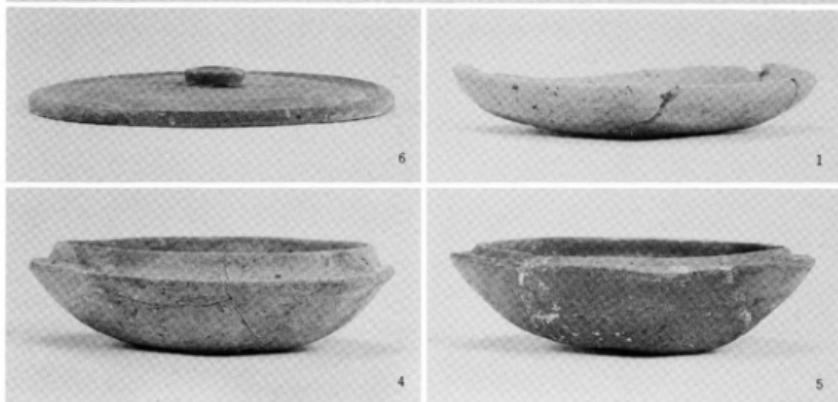
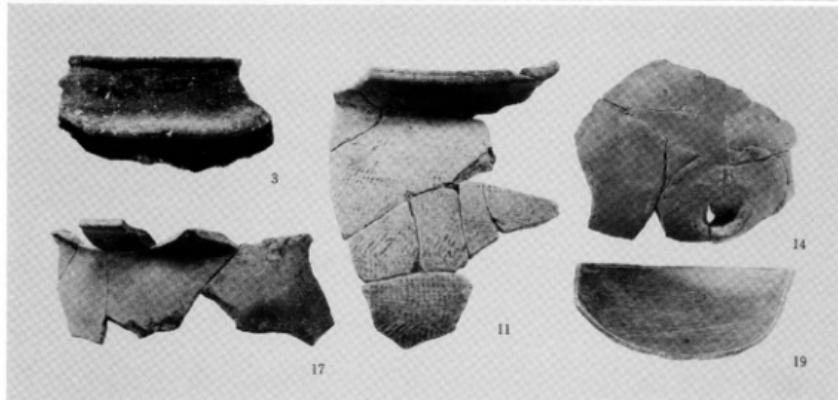
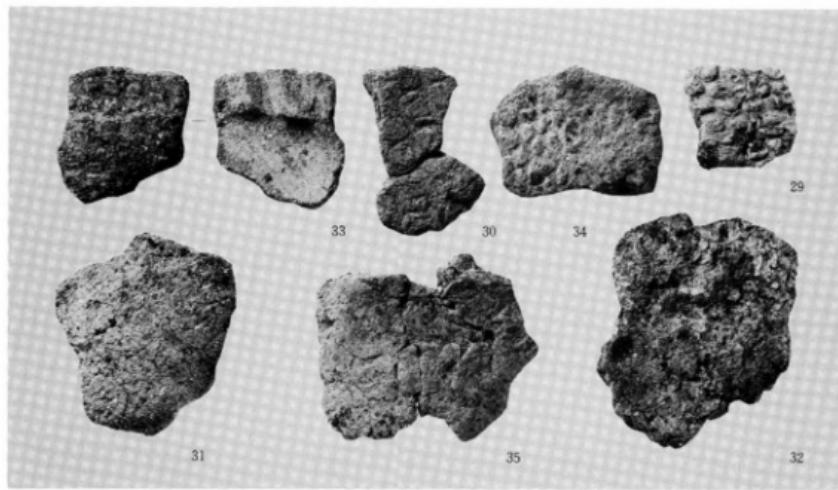
第1調査区全景（南西から）



第2調査区全景（南から）



第2調査区全景（北から）



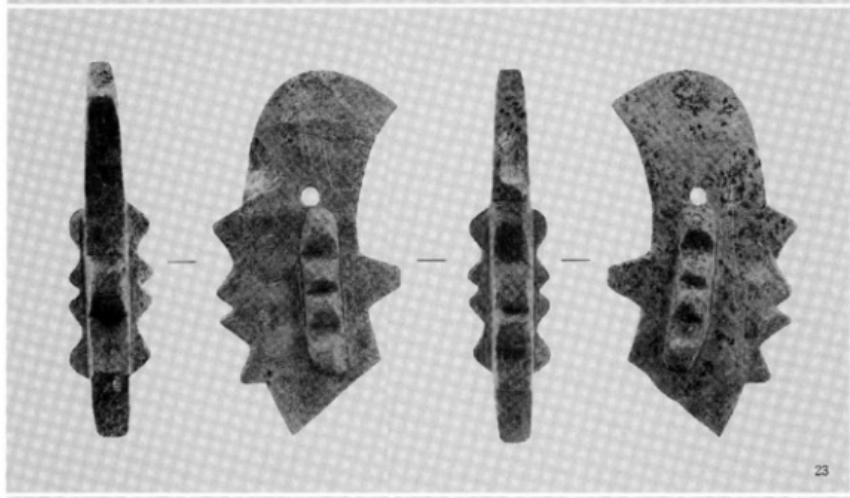
P-2 (1)、P-1 (3)、包含層 (4~6・11・14・17・19)、包含層縹文土器 (29~35)



包含層 (7~10・12・13・15・16・18・20)



22



23



36

37

鉄器 (22)、石製品 (23)、石器 (36)

